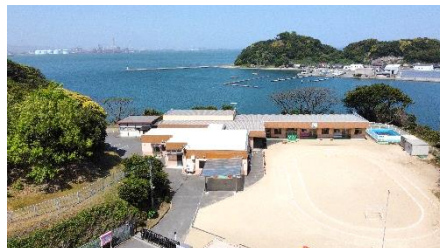




## 考える、決める、やってみる！

新緑がまぶしい季節です。わくわく山の木々も若葉が山を覆い始めています。「緑視率」というのをご存知でしょうか。これは、視界に入る自然の緑の割合のことで、国土交通省によると、緑視率が25%以上確保されていると人は安心感を覚えるそうです。その点、本園は緑に包まれており25%どころではありません。しかも今は艶やかな新緑。元気も出てきます。



先日の朝、通園バスに乗る子が2人、淡いオレンジ色の花を手を持ってバスを待っていました。2人が乗る場所は全く違うのですが、偶然同じ雑草を積んでいたのです。今話題の牧野富太郎氏によれば、「雑草という名前の草はない」そうなので、さっそく調べてみると、2人が手にしていたのは「ナガミヒナゲシ」。外来種で繁殖力の強い花だそうです。この2人は、道端に咲いているめずらしい花を見つけ、それを数本幼稚園に持って行こうと摘んでくれたのだと思います。この子たちの、道端の花を見つける目、きれいな花だと感じる感性、そして、幼稚園に持って行こうと思う行動力、これらは自然を慈しみ、美しいものに素直に感動されるご家族の優しさがちゃんとお子様伝わっている証だと思います。



現代は超情報化社会に加え、Z世代の間ではタイムパフォーマンスが重視されているそうです。映画を1.5倍速、2倍速にして観る人もいます。イントロなしでいきなり歌が始まる楽曲が増えているのも今の時代を象徴していると言えます。かつてアメリカのロックグループ、イーグルスの「ホテル・カリフォルニア」のイントロは1分近くもありました。その1分、ギターのアルペジオを聴きながらジェットコースターが上り始めた時のようなわくわく感に浸っていたものですが、今の若者はそこを多分スキップするのでしょうか。また、「チャットGPT」なる対話型AIは、質問に対しわずか数十秒の間に相当な量の、しかももっともらしい日本語で答えてくれるそうです。今後は法や条例等の早急な整備が待たれるところです。



さて、本園は教育目標「考える、決める、やってみる！」を掲げ日々取り組んでいます。これはつまり、子どもが様々な遊びを通して身に付けていく、自分で考える力、自分の判断で決める力、挑戦する力、やり抜く力、仲間と一緒に取り組む力、困難に立ち向かう力、失敗してもくじけない力といった、これからの社会で必ず必要となる資質・能力、いわゆる「非認知能力」を育むものです。読み書き計算を始めとした認知能力やマニュアル、How toなど与えられた知識だけでは、変化の激しい今の社会では通用しません。例えば新型コロナ。さすがのAIもコロナには成すすべもありませんでした。AIには非認知能力は備わっていないからです。最後に頼りになるのは、やはり人間の判断力、決断力、そして創造力に他なりません。

幼児期から子ども自身が主体性をもって Try and Error を繰り返し経験することによって、溢れる情報に流されたり溺れたりすることなく、また、易きに流れることなく自分の軸を太くしていったほしいというのが本園の教育目標に込めた願いです。

道端の花にも気が付かないほど先を急ぐことはありません。足を止め、時間を忘れて五感で花を眺めてもいいではありませんか。子どもは興味あるものから急速に字を覚えるものです。先述の牧野富太郎氏も、そうして世界的な植物学者になりました。 (園長 寺本 明生)